

## 計画の基本方針 体系

3 つ の 柱	市民サービスの向上	業務の効率化	人材育成
( 将 来 の 姿 )	「市民一人一人が自分の生活スタイルや使いやすさに合わせて、ちょうどいい形で手続きをしたり行政サービスを利用できる」	「すべての職員が、最適な環境の下、庁内各課が持っている情報を簡単に利用でき、職員間でスムーズに仕事ができる」	「すべての職員が基礎的な情報リテラシーを持っており、市の課題を分析し部署を越えて連携して、行政サービスや業務をよりよくしていける」
ビジョン実現のために達成すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の方の手続きの手間は最小限に抑えられる</li> <li>市民の方は手続きの仕方を選ぶことができる</li> <li>市民の方は市役所からの大切な情報をちゃんと受け取れる</li> <li>市民の方は施設やサービスをより利用しやすくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は互いにサポートしあって、ムダなくスムーズに仕事ができる</li> <li>職員は他の課の業務について、すぐに担当を案内したり問い合わせできる</li> <li>職員は紙の書類を探さなくとも、すぐに必要な情報を取り出せる</li> <li>職員は最適な場所・環境で仕事ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は常に庁内各所の情報を把握し市民に案内できる</li> <li>職員は積極的にデジタル技術を取り入れられる</li> <li>職員は市民目線で部署を越えて連携できる</li> <li>職員は現状をきちんと分析し、最適なシステムを導入・利用できる</li> <li>職員は一人一人が主体的に新しい知識・技術の習得に努める</li> <li>職員は根拠をきちんと理解した上で、基本的なシステム操作ができる</li> <li>職員はデジタル分野について基本的なことを共有できている</li> </ul>
具体的計画の取組	(例) ・キャッシュレス決済導入 ・マップシステム導入 など	(例) ・テレワーク ・ITガバナンス整備 など	(例) ・国、県のデジタル関連研修への参加 など

庁内部会で作成

## 将来の姿（ビジョン）

⇒中堅・若手職員目線で「日常的に感じる課題・疑問」が解決された後の松江市の姿。

## ビジョン実現のために達成すべき状態

⇒庁内部会職員が一人一人考えた、「日常的に感じる課題・疑問」が解決されたと言える状態をまとめ、更に抽象化したもの。